

自己評価シート

職員による自己評価

A環境面

- ・教室は広さは十分とは言えないが整理整頓されていて使いやすい。
- ・放デイを営む上での職員数は確保されている。
- ・利用者同士の関係に配慮された活動がなされている。

B利用者への支援内容

- ・概ね利用者のニーズや困り感を把握した支援ができていていると感じている。
- ・コロナ禍で余暇やカフェが制限した支援になった。

C関係機関との連携

- ・利用者関係機関、学校や地域などとの関わりが出来ていないと感じている。
- ・相談支援室の利用者が少しずつ増えてきているが十分とは言えない。

D保護者への説明責任・信頼関係

- ・学習支援報告は、利用者により異なり十分にできているとは言えない。
- ・個別支援計画作成時の面談だけでは、信頼関係を築くには十分ではない。

E非常時対応

- ・災害対応訓練（地震、火災、不審者）は年間計画に沿って実施している。

保護者による評価

A環境面

- ・教室は整理整頓されている。
- ・他の利用者との関係が配慮されていると感じる。

B利用者への支援内容

- ・学習支援は、利用者のニーズを把握したものになっていると感じる。
- ・コロナ禍で余暇やカフェの利用が制限された。

C関係機関との連携

- ・学校や関係機関との連携については十分と感じている保護者は少ない。
- ・講演会や学習会はコロナ禍であり、十分行われていない。

D事業所からの情報発信

- ・レクタスのホームページやブログを閲覧している保護者が少ないと感じた。
- ・お知らせや配布物はきちんと届いている。

E非常時対応

- ・非常時対応訓練は実施した内容を保護者に伝えている。
- ・虐待防止対策はできていると感じている。
- ・保険に加入していることを知らない保護者が多い。

事業所内での分析

【共通点】

- ・現在のコロナ禍の状況下で今の施設では十分な活動ができないと感じている。
- ・利用者や保護者のニーズや困り感を把握した支援ができている。
- ・利用者や保護者との面談の回数が少ないと両者が感じている。
- ・非常時対応訓練は定期的に行っていると感じている。

【相違点】

- ・レクタスのホームページやブログはあまり見ていない。また、関心を持たれていない様子で、レクタス相談支援室の存在を周知できていない。
- ・支援内容の評価を利用者・保護者と職員とで共有できていない。

分析・検証してみる

事業所の強み

- ・個に応じた学習支援、余暇活動、保護者支援を基本にした放デイ。
- ・余暇活動で利用者に見合ったゲームやおしゃべりができる。
- ・カフェコーナーの利用で自分で選び、おやつを購入できる（買い物体験）。
- ・駅から徒歩1分という立地。
- ・職員の和が保たれ、利用者・保護者に安心感を与える放デイ。

事業所の改善点

- ・余暇活動がゆっくりできる広いスペースの教室が必要。
- ・待機児の人数を解消できる方法を探す。
- ・送り迎えをしている保護者は利用時の振り返りができているが、そうでない保護者への振り返りや面談の機会が少ないので、面談の回数を増やす。メール、電話での報告を増やしていく。

事業所の改善への取り組み

- ・現教室の近隣で、教室として使える物件を探している。
- ・レクタスの活動である学習支援、余暇支援の振り返りを全員の保護者へ共通に伝えていく方法として電話やメールで連絡している。
- ・関係機関との連携を学校訪問等を念頭に置いて、積極的に進める必要がある。
- ・面談は必要時に積極的に行っていく。また、面談の内容は職員間で共有するように努める。
- ・HP、保険については周知する。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

区役所・児相などから教室の空き状況を尋ねられることが多々あり、1対1の学習支援に対する需要が非常に高いことは自己評価からも明らかである。学校への行き渋り等がある利用者は、学習面での心配は大きな課題であり、この課題を解消することは大きな支えとなっている。

保護者支援を念頭に置いて、レクタスの保護者カフェを開催し保護者同志の悩み等の共有など、他の集まりでは本音で話し合えることができる場を作っていく予定である。

今後も利用者や保護者から信頼の得られる放デイにしていきたいと考えている。

事業所名	レクタス放課後等デイサービス	鴨居教室
担当者	井上 奈穂子	